

八中3年人権だより

徳島市 八万中学校
3年生 第24号
2024年12月 2日
編集・文責 吉成正士

私たちだけの「カタチ」

■同じ班の人で「ふるさとがあるのは幸せなこと」ということ
を言っている人がいました。その人は失う前にそのことに
気づけていて、すごいなと思いました。

私は3年生になって、最初の頃は不安なことがいっぱい
だったけど、今はとても楽しい日常を過ごせています。でも、
あと14週したら、この楽しい日常がなくなるとなると考え
たら、とても悲しいです。今回の人権学習が、この学年で
の最後の全体人権学習で、それがもう終わってしまったの
かと、まだ実感が湧きません。きっと次の学活の授業の
ときに、面接のことに入ってやっと、「ああ、終わったんだな
…」と実感すると思います。すごく悲しいです。でも、終わっ
たんだな…と考えて学びを止めるんじゃなくて、高校に入っ
ても大学に行っても就職しても、ずっと学び続けて、燃やし
続けられるようにしたいです。吉成先生が最後に言ってい
た、「今、これからずっと学び続けていくことが、私たちが
行ってきた人権学習の「カタチ」ではないのかなと思いま
す。一時の学習じゃなくて、学び続けること、この峠を下る
とき、吉成先生などの周りにいた支えてくれていた先生は
もういなくなっていて、残っているのは私たちの学習の足
跡で。その足跡から私たちが人権学習を続けていかなけれ
ばならない。この学習に終わりはなく、私たちが誰も悪く
ないのに生んだ「悪さ」を補って、取り除いて、ゼロにし
て、その道のりは絶対長いだろうけど、失う前に気づけた
この大切さを忘れずに、持ち続けていきたいです。

5組TK

学年が上がるとき、通う学校が変わるとき、人の意識
は一度リセットされる傾向があるように思います。新しい
道に一步を踏み出す時に、気持ちをリフレッシュさせ
ようとするのかもしれません。それが、過去の記憶を消
去することにつながるのかもしれません。かといって、
すべてを消去するわけではありません。何を消去して、
何を残すのか。それは人それぞれでしょうが、せつかく
の学びが高校生になったとたん、「あっ、そんなことあ
ったっけ」っていうぐらいに消えてしまい、本当に「残
念だなあ」と思ったことがよくありました。「これまで
やってきた人権学習は何だったんだろう」とか、「人権
学習をやる意味はあるんだろうか」とか、本当にいろん
なことを考えました。

けど逆に、「何が欠けてたんだろう」とか、「大切な
ことは何なんだろう」とか、考えに考え、改良を重ねて
きたことも事実です。私の教員人生30数年のほとんどす
べてが、その悪戦苦闘の毎日でした。改良に改良を重ね
た結果として、この3年間があります。そのうえに皆さ
んは、「八中方式」も考案しました。確かに皆さんが言
う通りです。

まず手を挙げにくい。手を挙げるだけなら頑張れる。

一人で立つのは難しい。みんなとでなら立ちやすい。
一人で発表するのは難しい。仲間がいれば発表しやすい。
それらを叶えたのが、「八中方式」です。まだ改良はさ
れていくのかもしれませんが。自分たちに合った、より良
いものにしていけばいいのです。皆さんのそんな姿を、
またどこかで見たいものです。



積みあげてきた時間は、私の誇り

■上手に言葉にできないけれど、とても感動しました。今
までの人権学習がすべてつながって、いろいろなところか
ら少しずつ掘っていた穴が全部つながって大きな穴がで
て、新しい景色が広がったような感覚です。そして、その
トンネルの出口は、トンネルを抜けた先の世界の入り口でも
あるように、全体人権学習は終わるけれど、新しい生活
へ、これから未来への第一歩なのだと思います。

私にとって1年生のときから積みあげてきたこの時間は
本当に宝物だし、意見を言ったり聞いたりできる同級生も、
先頭に立ってくれた素敵な先生も、私の誇りです。

最後に発表できてよかったです。吉成先生が、「よく覚え
ていましたね」とおっしゃいましたが、私はこれからはずっと
覚えていたいと思います。1年、2年のときに書いた感想
や、配られた人権だよりを今読み返すと、新しい気づき
があるので、今日の資料や感想を何年か経ったあと見返す
のが楽しみです。3年間、充実した時間をありがとうございました。

6組KM

うれしいです。そんなふうに残ってくれていることが。
こんな、学年みんなで語り合う人権学習が、年月を経
てどんな影響を及ぼすのか、追跡調査をしたことがあ
りました。50人以上の教え子たちが回答を送ってくれま
した。その中でも私を引きつけた文があります。

おはようございます。僕の率直な意見を送りますね。

僕は埼玉県から引っ越してきて中学に入学しました。同
和問題なんて全く知らなかったんです。みんなは知ってま
した。

僕ね、知らなかった方が良かったって当時思ってい
ました。わざわざ知ることないんじゃないかな？知ったがゆえ
に違和感持ったり、ギクシャクしてしまったり。知らなかった

ら今まで通り普通に過ごせるのにつて。

部活の帰りSちゃんと歩いてたら、アイツ、(部落出身を)カミングアウトしてきたんです。『何で言うてくるん？わざわざ。別に差別なんかせえへんし。それ言うて俺に何を？』って思ってたんやけど、別れて一人帰ってる道中で何でか涙流れました。イジメ受けてるわけじゃないSちゃんがなんで？僕が世間知らずだけやったんか？って考えながら帰った記憶があります。

高校卒業してから県外に住んでるんですけど、『今(社会人なって)』『ようやく』討論する理由・重要性が分かりました。先生の熱さは何故？っていうのが分かるのは、社会に出てからです。

懐かしい歌聞けば当時が走馬灯のように思い出されます。でも三日前の出来事覚えてません。コレ、記憶じゃなくて『感動』で心に響いてるからなんですよ。

僕、全体学習の席まで覚えてます。体育館の校庭側、前列三番目でした。向かいの窓から職員室越しに青天で…感じたことは温度差・個人差あるでしょうが、僕は残ってます。

僕は熱血→人 情→人柄だと思います。あまり偉そうなこと言えませんが、経験されてきた先生には敵いませんが、僕も今、部下30人いて思うのが、相手は感情持ってる『人』なんです。先生の人柄・人格でそのまんまいってほしいなあって思います。

いろんな教え子含めて、これから待ってる人にも気張ってあげて下さい。何の参考にもならなかったかもしれませんが、偉そうに答えた分、僕も頑張ります！

この回答が送られて読んだとき、本当にうれしかったのです。膝から崩れ落ちるようにして涙したくらいうれしかったのです。こんなにも残っていたんだと思って。何度も何度も読み返しました。

中学校を卒業して20年以上経つ彼は、中学時代1度も発表はしたことなかったと思います。どちらかといえばあまり関心のないような中学生でした。それでもちゃんと残っていて、その後の彼の人生にちゃんと影響を及ぼしている。無駄な、意味のないことじゃなかったんだと思えて、本当にうれしかったのです。

発表をしない子、感想が十分に書けない子、関心がなさそうな子、だからといって、意味がないことはない。意味がないように見えて、実は後々大きな意味をもつこともある。だから見限るんじゃなくて、見放すんじゃなくて、いつか役に立つときがくると信じ抜くことが大切なのだと思わされました。



ほぼ毎朝、私は自転車で通勤しています。阿波踊り会館前から新町小学校の前を通り、金比羅神社まで抜ける一本道を走り抜けます。その裏通りを通って8年。寒くなった季節から3月くらいまでのこの通りが、私は特に好きです。まだ日が明けきらない街並みのうえを、白みはじめた空に浮かんだ雲がオレンジ色に朱らんでいきます。眉山全体もオレンジ色に染まりはじめます。小径から見える、朝焼けに映るビル群。朝日に照らされた建物もオレンジ色に輝き、そこに別の建物の陰が重なります。夜の街は眠りににつき、代わって昼の顔が目覚めはじめます。冷たい空気が鼻先や頬をかすめ、それが肌の張りとなって体を、気持ちを引き締めてくれます。真正面に見える金比羅神社の黄金色に紅葉した大イチョウの木が、自転車に乗る私を雄々しくやさしく迎えてくれます。そんな光景を眺めながらの早朝通勤が、本当に好きでした。

皆さんと会えるのもあとどれくらいでしょうか。数週間でしょか。皆さんはどんな卒業式を迎えますか。どんな心持ちでこの学び舎をあとにしますか。そして、どんな思いで新しいステージに巣立っていきますか。もうそれが分かる術は、私にはありません。皆さんだけのストーリーです。そのストーリーを、思う存分に生きてください。それが私たちの願いです。そしてもし、帰ってきたい思いがあるなら、そこが私たちの「ふるさと」です。中学生活、みんなと人権学習ができて本当に幸せでした。これで最後になります。

皆さん本当にありがとうございました。

